

QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか

航空機モニタリングでは、上空から、地表面から放射される γ （ガンマ）線を測定し、その測定結果をもとに地上 1m 高さの空間線量率や地表面への放射性セシウムの沈着量を算出しています。

航空機モニタリングでは、感度の高い放射線検出器（NaI シンチレーター）を航空機（ヘリコプター等）に搭載し、地上から高さ 150～300m 上空を飛行しながら、地上（直径 600 m 程度の円形の範囲）からの放射線量（ガンマ線量）の平均値を測定しています。その後、別途地上において測定しておいた空間線量率を基に、上空での放射線量を地上 1m 高さの空間線量率に変換し、地表面から 1m の高さの空間線量率及び地表面への放射性セシウムの沈着量を算出します。

航空機モニタリングの特色は、里山や山林など人による測定が難しい場所を含む広範な地域を一括して測定でき、また、地上の平均的な放射線量を測定するのに有効な手法であることです。

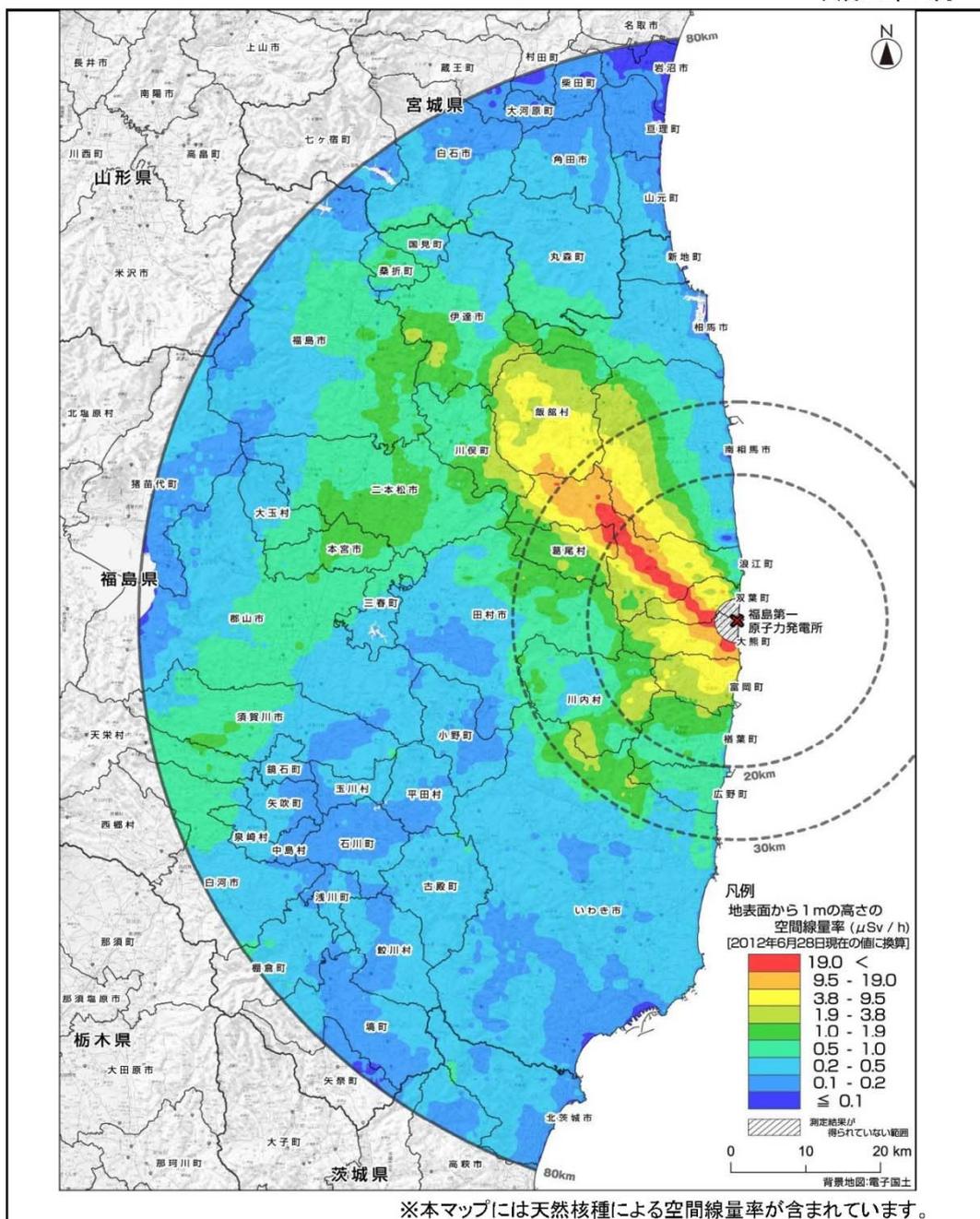
なお、測定手法の違いによるバラツキはあるものの、航空機モニタリングの測定結果（空間線量率）は、地上において NaI サーベイメータにより測定された結果と概ね一致することを確認しております。

航空機モニタリングの方法



第5次航空機モニタリングの結果(文部科学省)

平成24年11月



※: 航空機モニタリング結果 (原子力規制委員会 (当時: 文部科学省))

<http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/list/362/list-1.html>

出典: 復興庁「避難住民説明会等によく出る放射線リスクに関する質問・回答集」より作成

出典の公開日: 2012年12月25日

本資料への収録日: 2013年1月16日